

# 新・東中とんぼ通信

発行 横浜市立若葉台東中学校 編集責任 鈴木 徹



第4号

## 「東中とんぼ通信」名前の由来

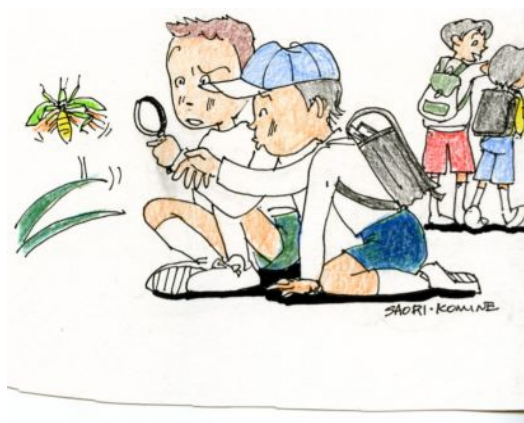
紹介が遅くなってしまい申し訳ありません。今回は、本通信が「東中とんぼ通信」と命名された由来について、お話ししておきたいと思います。

みなさんは、レンガ通りにある池をご存じでしょうか。編集者が本校に転任してきた当時、あの池は夏になるとドブ臭く、水中には、ビンや缶、挙げ句の果てにはバイクまで投げ捨てられている有り様でした。毎年、夏休み前になると、部活動の合間に部員のみなさんが全身泥まみれになり、清掃を繰り返していたのです。あまりにもひどい状態であったので、その後数年かけ、職員やみなさんの先輩方の協力を得て、池の改造を行いました。水質浄化のため池の構造を変え、植物を植え、クロメダカを放流しました。また、ゴミ捨て禁止・むやみな金魚の放流とえさやりお断り、などが書かれた立て札も作りました。

一年ほど経過して、池は様々な変化を見せてくれるようになりました。その中でも、特に驚いたことは、池を訪れるトンボの頭数と種類が激増したことです。これは、ほんの小さな改良でも、自然環境に思いの外大きな影響を与えるものなのだとことを実感させてくれた出来事でした。また、この事実は、若葉台東中学校の自然環境の豊かさを象徴しているように思えました。そこで、東中の環境についてお知らせする通信の名称として、ぜひともトンボという言葉を入れようと考えて、「東中とんぼ通信」と命名した訳です。

## 春の野草

まずは先号の種明かしからです。「オオイヌノフグリ」・「ヒメオドリコソウ」・「タネツケバナ」・「ホトケノザ」はよく見かける花ですが、出身地は、**前2種がヨーロッパ原産**、**後2種が在来種**です。半分は海外からのお客様だった訳です。同様に、私たちが知らない間に、意外なほど多くの生物が海外から進出しているのです。こう考えると、私たちは、表面化しない自然の変化を数多く見過ごしてきてしまったのかもしれませんが。これまでも、自然からは常に私たちに向け、多くのメッセージやサインが送られてきていたに違いありません。私たちが**自然を見つめる目**を持たなかったばかりに、その重大な情報をつかみ損ねていた



といえそうです。現在、地球規模で取り組まねばならなくなってしまった「環境問題」についても、「環境問題」に至る破壊の前触れは、春の訪れや外来種の進出と同様に、ずいぶん前からあったのでしょうか。自然からの知らせに気付かずに、現在を迎えてしまった我々の姿こそが、「環境問題」そのものといえそうです。このように、身近な自然の中にも「環境問題」を理解する要素はたくさんあるのです。

